

9月3日(木) @Ntcc 祈禱会 原稿 能城一郎

タイトル：永久の平穩と安心

聖書箇所：イザヤ書 32 章 17 節

今日も皆さんとご一緒に聖書を学び、そして、お祈りが出来ることを感謝申し上げます。

今日のタイトルは、「永久の平穩と安心」と致しました。聖書箇所は、イザヤ書の 32 章 17 節です。

最初に、イザヤ書の 32 章 17 節の翻訳の比較を通して、みことばを深く味わいたいと思います。

【新改訳 2017】

Isa 32:17 義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穩と安心をもたらすとき、

【フランシスコ会訳】

Isa 32:17 正義の作り出すものは平和、正義の生み出すものはとこしえの静けさと信頼。

【新共同訳】

Isa 32:17 正義が造り出すものは平和であり、正義が生み出すものはとこしえに安らかな信頼である。

【口語訳】

Isa 32:17 正義は平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安と信頼である。

【岩波訳】

正義の作り出すものは平和、正義の作物は永久に至るまでの静穩と安心である。

英語の翻訳ですと、・・・

【NKJV】

Isa 32:17 The work of righteousness will be peace, And the effect of righteousness, quietness and assurance forever.

【NIV】

Isa 32:17 The fruit of righteousness will be peace; / the effect of righteousness will be quietness and confidence / forever.

このようになっています。

今日のタイトルは、新改訳 2017 のイザヤ書 32 章 17 節の平仮名の「とこしえ」のを漢字の「永久」としました。新改訳 2017 の特徴の一つは、漢字を多く使うこととされています。例えば、「いやし」ということばですと、今、スライドで示していますが、ペテロの手紙第 1 の 2 章 24 節です。

【新改訳 2017】

I ペテ 2:24 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

【新改訳改訂 3】

I ペテ 2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

漢字は、印刷されると平仮名よりも確かに、インパクトがあります。新改訳 2017 も、平仮名でなく漢字で、「永久」としてほしかったとの願いから、タイトルを漢字の形容詞を使って「永久の平穏と安心」とした次第です。単なる「平穏と安心」ではなく、「永久の平穏と安心」について、今日は、考えてみたいと思います。

今、スライドに出ていますように、「平穏と安心」にも、様々な翻訳があります。フランシスコ会訳の「静けさと信頼」は、ことばの響きが私には心地よいので個人的に気に入っています。また、岩波訳の「静穏（セイオン）」の日本語の漢字感性、「シズカでオダヤカ」も捨てがたいと思っています。8/13（木）のメッセージで、「散文されど散文」という座右の銘をお話しましたが、「翻訳されど翻訳」も、私の聖書を読む時の座右の銘です。「星の王子さま」という本がありますが、この本の翻訳は、14 種類あるそうです。人の心を感動させる書物の翻訳は、一つではありません。真摯な翻訳ならば、その翻訳の中に、人を感動させる大切な言葉が含まれているのです。台風 10 号が発生しました。今までにない勢力をもった台風と予測されています。私達は、新型コロナ感染予防と災害対策の両方に気を付けながら、毎日を過ごさなければならぬ、9 月に入っています。この状況下で、誰もが、心の平穏と確実な安心して信頼できる何ものかを求めているのではないのでしょうか。

以上、ことばの大切さの横道に入ってお話をしましたが、本題に戻る事に致します。

さて、「永久の平穏と安心」のメッセージが、預言者イザヤによって語られる文脈を見てみましょう。イザヤ書 32 章 9 節から 14 節を読みながらお話を進めます。

【新改訳 2017】

イザヤ書

32:9 「安逸を貪る女たちよ。立ち上がって、わたしの声を聞け。うぬぼれている娘たちよ。わたしのことばに耳を傾けよ。

32:10 うぬぼれている女たちよ。一年と少しの日がたつと、あなたがたはわななく。ぶどうの収穫がなくなり、その取り入れもやって来ないからだ。

32:11 安逸を貪る女たちよ、震えよ。うぬぼれている女たちよ、わななけ。着物を脱いで裸になり、腰に粗布をまとえ。

32:12 胸を打って嘆け。麗しい畑、実り豊かなぶどうの木のために。

32:13 茨やおどろが生い茂る、わたしの民の土地のために。そして、楽しい家々のすべて、おごる都のために。

32:14 なぜなら、宮殿は見捨てられ、町の騒ぎもさびれ、オフエルと見張りの塔は、いつまでも荒れ野に、野ろばの喜ぶところ、群れの牧場になるからだ。」

「安逸を貪る女たち」の翻訳もバラエティーに富んでいます。「のんきな」(新改訳改訂 3 版)、「安んじている」(口語訳)、「憂いなき」(新共同訳)、「何もせずにぶらぶらしている」(リビングバイブル)・・・等です。ここで、「女たち」ということばについて説明をしておきます。日本語には、名詞に男性名詞とか女性名詞とかの区別はありません。ヘブル語では、13 節の「土地」、「都」、14 節の「町」は、すべて女性名詞です。ですから、「安逸を貪る女たちは」、「安逸を貪る人々」を意味しています。

この「安逸を貪る」人々が、一年後には、まったくの想定外の出来事に会い、「わななく」と 10 節に書かれています。「わななく」の翻訳は、「震えおののく」、「慌てふためく」、・・・等です。預言者イザヤは、イスラエル民族の最大の国難、「バイロン捕囚」(紀元前 600 年頃) が来ることを予言しました。

今まで、当たり前と思われていたことが、当たり前でなくなり、その状態が、70 年以上も続くというのです。その中で、イザヤは、70 年後の回復を預言します。その預言が、今日のタイトルの箇所 17 節です。15 節から 18 節をお読みします。

32:15 しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と

見なされるようになる。

32:16 公正は荒野に宿り、義は果樹園に住む。

32:17 義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穩と安心をもたらすとき、

32:18 私の民は、平和な住まい、安全な家、安らかな憩いの場に住む。

15 節には、「いと高き所から私たちに霊が注がれ」と記されています。永久の平穩と安心の回復には、人間の業ではなく、神のくはたらきが必要であると語っています。この「神からの霊がわたしたちに注がれる」力で、不毛の荒野がフルーツの畑になり、それが、増え広がってゆく様子が、15 節の後半に描かれています。国難の最中で「平穩」は失われました。艱難の中で人が人を裏切り「安心」して「信賴」出来る人はいなくなりました。

壊滅された「平穩と安心」を「永久に」回復されてゆく幻をイザヤは見たのです。神の霊が注がれた人々の「義」の奉仕、働きが、「永久の平穩と安心」には、絶対に必要なのです。「義」は、ヘブライ語では、「ツェダーカー」<sup>1</sup>、英語では、「righteousness」です。17 節、「義が平和をつくり出し、義がとこしえの平穩と安心をもたらす」の「義」には、定冠詞がついています。「その義」と限定されています。「神の霊が注がれた人々の奉仕、働き」が、「その義」なのです。「その義」が、「平和（シャローム）をつくり」、「その義」が、「とこしえの平穩と安心」をもたらすのです。

このメッセージの準備中に、イエス様の山上の垂訓の言葉が強く思い出されました。

新改訳 2017

マタイ福音書

5:2 そこでイエスは口を開き、彼らに教え始められた。

5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。

5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。

5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。

5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。

5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。

5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。

5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。

マタイ 5 章 9 節の「平和をつくる」のには、何が必要でしょうか。

---

<sup>1</sup> צְדָקָה

新型コロナウイルスのパンデミックの中で、今、一番安全な国と言われる「ニュージーランド」に、留学をしている人の生の声を FM ラジヲで聞きました。ニュージーランドでは、「Be Strong. Be Kind.」を国民性のスローガンとしているとのこと。日本では、優しさのない、「自粛警察」という「Strong」だけ、とげとげしいだけの力が働いています。「Be Strong. Be Kind.」ということばに接し、「神の霊からの力」と「やさしさ」が、「神の子ども」には、必要であると再び教えられました。

これから、祈りの時を持ちますが、聖霊に満たされ平和をつくり出す祈り、「永久の平穏と安心」に至る祈りを捧げて参りましょう。

先ほど、台風 10 号のお話をしました。災害だけでなく、他の悪しき業の誘惑や被害が広がっています。皆さんと「主の祈り」をして、祈りの時に入りたいと思います。

